

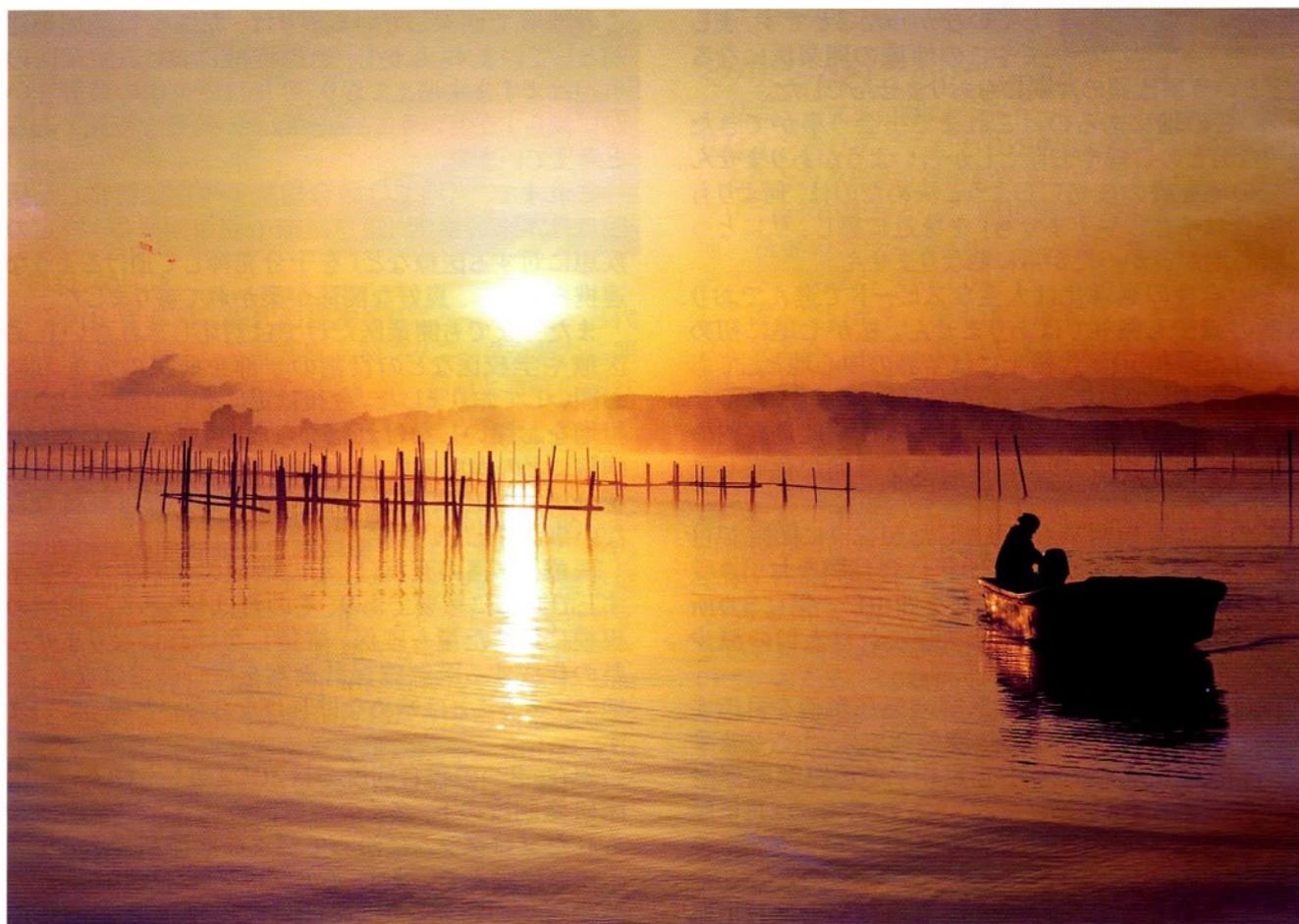
Medical Salon NANA0

メデイカルサロン

な な お

第77号

発行
メデイカルサロンななお
(七尾市医師会内)
〒926-0854 七尾市なぎの浦156
TEL (0767) 52-2297
FAX (0767) 53-6548



目次

表紙	p.1
会長挨拶	p.2
新しい仲間①②③④	p.3 ~ 6
本日休診 I . II .	p.7 ~ 8
これだけは言わせて	
パトリアの終焉に思うこと	p.9
七看だより	p.10
ななお紫蘭の会 活動報告	p.11
あじさい会 活動報告	p.12
医師会の窓	p.13
副会長のコーナー／短信	p.14

「牡蠣棚の朝」

七尾西湾は私のお気に入りのスポットです。凛とした空気に包まれた早朝、海霧の中に牡蠣棚が並び、その向こうに和倉温泉の宿が見渡せます。冬に味わえるプリプリの甘い牡蠣は最高です。

佐原まゆみ



住みやすい街をめざして

七尾市医師会会長 奥村義治



早いもので、石川県に移り住んで45年、七尾の地に来て30年余が経ちました。

高校時代まで京都で生まれ育った私が、能登の地で生涯の大半を過ごす事になるとは、大学卒業の時点でも予想だにしていなかったことです。ましてやこの地域の開業医になる

などという事は頭の片隅にもありませんでした。

今、この地にあるのはこれまで出会う事ができた色々な方とのご縁やお蔭としか言いようがありません。

この地を終の住処にしようと決めたのは、何よりも「能登はやさしや土までも」を身近に感じ、私にとって居心地が良かったからに他なりません。

その能登の過疎化は大変なスピードで進んでおり、医師の減少も例外ではありません。私が七尾に初めて訪れた昭和50年代後半には半島の中心地としてある程度繁栄しており、人口の割には医師の多い街、という印象を持ちました。当時は七尾市内・鹿島郡内の各地区に必ずと言ってよいほど医療機関が存在しました。

その後は新規開業もありましたが徐々に閉院が目立つようになり、私が平成29年に会長職をお引き受けした前年辺りから、高齢などを理由に一気に5カ所の医療機関が閉院となりました。これは人口の減少の更に上を行く速さです。

国は2036年度を目途に医師の偏在解消を目指す「医師確保計画」を2020年度からスタートさせますが、各都道府県には2019年度中にその医師確保計画を作成する事が求められています。今年の2月に厚生労働省はその指標となる医師偏在指標を発表しました。

その数値をみてみますと、都道府県別では石川県は第7位(指数270.4)で医師多数区域に入っています。県内に2つの大学がある状況からすれば納得できる順位です。

さらに二次医療圏別では能登北部が92.9(全国335地域中320位)と下位1/3の医師少数医療圏、能登中部は指数155.1(同195位)の中間位でした。ちなみに石川中央は361.6(同16位)で上位1/3の医師多数医療圏に入っています。

この指数からしますと能登中部は医師がさほど不足していない、という事になり、現実とは少しかけ離れているという印象を持たざるを得ません。

確かに七尾は2つの総合病院と専門医療に特化した独立行政法人国立病院機構の病院があり、病院医療には恵まれた環境にあります。

ところが地域の窓口となりうる開業医(かかりつけ医)の減少は先に述べたように急速に進んでおり、医

師会内の対象人口72,000人に対して、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科など、1~2軒で奮闘している診療科もあって医師偏在は著しいものとなっています。

一人の開業医が在宅医療をはじめ、学校医、警察医、産業医、施設医など何役も務める状況は、過疎化の進む地域ではおそらくどこでも当たり前になっている姿かと思えます。本来の診療以外の地域活動は、この地域で開業している限りは、原則全員参加を建前としています。しかし過疎地域における開業医の負担はますます増えており、今後は開業医の疲弊をいかに減らすかということも医師会の重要な役割であると考えています。

これまで、当地では総合病院や専門に特化した病院には本来の機能(救急医療や回復期医療、特定の疾患に対する医療など)を十分発揮して頂けるような連携を目指し、良好な関係が築かれて参りました。

また今までも開業医だけでは対応しきれない在宅医療や学校医などの役割の一部を病院の先生方をお願いしておりました。今後は更にその役割分担の負担増をお願いしなければならない状況に達しており、病院にどの程度の負担をお願いしてよいものか、現状を分析した上で、十分話し合っていかなければならない事と考えています。

医療・介護の充実は、その地域の住みやすさを示す上で非常に重要であり、その質はもちろん、地域の規模に応じた量も確保・維持しなければなりません。県の作成する医師確保計画案を待つのではなく、当地でできることは始めなければならないと思っています。

現在、2つの総合病院では2004年から始まった臨床研修制度の下、多くの研修医の皆さんが予め決められたプログラムに沿って様々な診療科での2年間の研修に励んでいます。そのプログラムの中に地域の診療所での研修を加えて頂けると、病院と診療所の連携をつぶさに見る事となり、更にこの地に興味を持って頂けるのではないかと考えています。そしてこのような経験の中から将来、当地で働きたいという人が出てきて欲しいという希望も抱いています。

また、これからの医師会は医療・介護関連以外の色々な職種の方々と連携や意見交換も行っていかなければならないと考えています。この地に住む人が医療・介護をどの様に考え、何を期待しているのかも知らなければなりません。住民の皆さんの制度や体制に対する不満は、医師会が政治や行政に伝える責務があります。住民の満足感は地域を繁栄させ、繁栄した地には医師が集まるのは自然の事かと思えます。

住民の皆さんにとって安心して暮らせる街をめざして、七尾市医師会は全面的に尽力したいと考えています。



新しい仲間 ①

荒井皮膚科クリニック

荒井 美奈子



<はじめに>

2016年6月に先代の建物をリニューアルし、3代目の皮膚科医として荒井皮膚科クリニックを新たに開業しました。とりとめないですが、自身と当院の紹介を兼ねて記します。

<能登七尾とのご縁>

昭和19年、祖父・荒井俊太郎が公立能登総合病院の初代の皮膚科泌尿器科医長として赴任し、そのご縁から昭和23年に荒井皮膚科泌尿器科医院を現在の場所に開業しました。祖父は若くして亡くなりましたが、その後父・荒井邦夫が同じく公立能登総合病院へ赴任し、昭和51年に荒井皮膚科医院を開業したのち、以来40数年にわたり皮膚科診療を続けています。私自身も金沢大学病院や、富山県立中央病院、公立能登総合病院などで勤務し、現在のクリニックの開業と診療に至ります。

<出会いの喜びと楽しみ>

開業より3年間が経過しましたが、色々な方が受診してくださり、多くの出会いがありました。私の幼い頃を懐かしんでくださる年上の方(私は小さい頃で覚えていない時もあるのですが・・・)や、久しぶりの同級生。そして、60年近く前に祖父に受診したことのあるおじいさんからは、祖父は厳しい人だったと私の知らない一面を教えられ、自身の故郷で診療することの喜びを感じています。一方で、赤ちゃんの頃からアトピー性皮膚炎で通院している2歳の女の子は、徐々に症状が落ち着いてほっとしていたところ、帰り際に投げキスをくれました。あまりの可愛さに、久しぶりにときめいた瞬間でした(笑)。これからも新しい出会いが楽しみです。

<当院の診療や取り組み>

当院の主な診療内容は、アトピー性皮膚炎や、湿疹、小児皮膚疾患、乾癬、熱傷、褥瘡(床ずれ)、皮膚腫瘍、帯状疱疹、疣贅(イボ)、白癬(水虫)、

ざ瘡(ニキビ)などの皮膚全般と、髪、爪に関する疾患を対象に、診療をおこないます。乾癬や、掌蹠膿疱症などに対する紫外線治療(ナローバンドUVB)もリニューアルを機会として新たに導入しました。自費治療としては、巻き爪に対する弾性ワイヤー治療や、男性型脱毛症(AGA)の内服治療、シミに対するハイドロキノン美容液、ピアスにも対応しています。かゆみや痛みがなく、悪性腫瘍ではなくとも、少しでも見た目をきれいにしたいというニーズが高まっています。大きい腫瘍の手術への対応はできませんが、首のイボなど小さなものにも、丁寧な治療をしていきます。女性医師だからこそ、女性ならではの悩みにも寄り添えればと日々取り組んでいます。

<クリニックとしてのリニューアルとこだわり>

リニューアルに伴い、先代から建物を一新しました。私はインテリアにこだわりがあり、すでに開業されている色々なクリニックやお店を見て歩きました。今回はクリニックの床材から、間接照明、待合ソファの布地、洗面のガラススタイル、掲示板、棚の色、診察カーテン、診察ベッドのカバー、絵画にいたるまで吟味して選んでいます。例えば、床材は、木製フローリングに見える、丈夫で扱いやすい床材にしています。表面に木目の凹凸もついており、立体的で、雰囲気のあるところが気に入っています。掲示板は、他の壁と同じに見えますが、実は壁紙の下に薄い金属板が貼られているため、マグネットで掲示ができます。受付に飾られた、子供の写真パネルも気に入っています。私の祖母が70代から80代の頃に趣味で撮影したものです。(現代美展に入賞するほどの腕前でした。)3才ぐらいの可愛らしさもありつつ、まっすぐ見つめるまなざしが真剣で力強さがある一方、全体の色調が落ち着いているため、印象的です。院内全体としては原色を用いず、優しい色合いのもので統一しているので、消火器の赤色を残念に思うほどです(笑)。来院された患者さんが明るく、優しい気持ちになれるように、そして私自身が楽しく長く仕事ができるよう、クリニック全体のコーディネートをできたかと思います。ぜひ機会がございましたら、お立ち寄りください。



<最後に>

今後も気軽に受診できるよう、女性医師としての視点や配慮を伴いつつ、新しい治療の知識を取り入れながら、能登地域の皆様に信頼される医療を提供できるよう心がけていきますので、宜しくお願い致します。



野球バカ？

平成 29 年 10 月より国下整形外科医院で勤務しております、庭田(にわた)です。生まれ故郷の七尾にはありますが、高校卒業後は不思議と縁がなく、七尾市で仕事をするのはこれが初めてです。医師となつてから 20 年余りの間、自分の友人や親族を直接診療した経験がほとんどありませんでしたが、赴任早々に親せきやら、同級生やら、近所のおばちゃんやら、わりと身近方がたくさん来院され、時には幼少期のあだ名で呼ばれたりして、気恥ずかしいものですが、地元に戻って来たなどあらためて感じ、より一層地元の為にかんばろうという気持ちになりました。

自分は考えを文章化する事が大の苦手なのですが、医師会事務局から「yes or no を選択する権利はございません」と半ば脅迫的な依頼でしたので、簡単に自己紹介をさせていただこうと思います。

私は、昭和 47 年に七尾市八幡町に生まれ、ひたすら野球に明けくれる少年時代を過ごしました。七尾高校に進学し、遊びから若干意識が上がってまじめに取り組むようになり、何とエース! に抜擢され、シードされる様な結果を残して、そして、、、天狗になりました。最後の夏はあっさり敗戦。その後は何もする気が起こらずユニーの本屋で立ち読み三昧をしておりました。夏休み中に受験勉強にシフトできてからは立ち直つて、自治医科大学に合格して医者卵となりました。

大学でも東医体で 2 度優勝投手になるなど野球三昧でしたが、無事に卒業、国家試験もパスして平成 9 年に医師となりました。初期研修後、舩倉島から僻地勤務がスタートしました。とっても良かったと諸先輩方がおっしゃっていますが、やっぱり大変でした。いろいろと。単身赴任でしたし、携帯つながらないし。その次には南の端である白峰村診療所に異動。豪雪(一晩で 3m 積りました)があったり、山

のトンネル内でトラックと正面衝突して生命の危機を感じたりと忘れられない場所になりました。次は珠洲市総合病院に異動となりました。今度は能登半島の端です。医師になってから、整形学会での野球大会以外は野球からは離れていましたが、ここで初めて草野球チームに入って、市中の野球関係者との交流もできるようになりました。

ここで義務年限が終了し、翌年から公立松任石川中央病院に勤務となりました。専門医も取得し、サブスペシャリティーとして、関節外科やスポーツ整形を受け持っていました。移籍した草野球チームでは、私にとって初めて全国大会に出場して、ベスト 4 まで行くというとてもいい経験ができました。2 イニングしか出場していませんけど。

松任で 9 年が過ぎ、突然輪島病院への異動を指示されて、平成 27 年から輪島病院に赴任しました。40 も中盤にさしかかり、今後のキャリアを考えるお年頃になっておりましたので、「雇われ院長なんかどうだろうね」などと冗談話をしていた矢先、国下院長からのお誘いがありました。七尾で働くということも含めて、願ったり叶ったりの心境でしたが、なにせレジェンドの国下先生です。私にとって雲上人です。もしや何かのどっきりなのでは? などと苦悶しつつ悩みましたが、快諾させていただきました。そして平成 29 年 10 月から院長とともにお仕事をさせて頂いております。

仕事を始めて、まずは院長の凄さにびっくり。私はまさに蛙がいきなり大海に放り出された心境でした。こんな私にや無理やんと凹んでしまいましたが、よく考えても考えなくても、仕事相手は院長ではなく、患者さんです。これまでやってきたスタイルは簡単に変えられるものではありませんので、最先端、最高級ではありませんが、時代のスタンダードから外れない医療を提供し、地域医療の担い手の一人として、故郷七尾のためにお役にたてればと思っております。

あれ、野球は?・・・そうです。国下整形には野球部があります。なにを隠そう院長からの誘い文句は、「うちの野球部に入らん?」だったんです。もう体が動きませんわと言いたかったところなんですが、我が医院の放射線技師長さんは七尾高校野球部の 2 年先輩。しゃべることすらできない神様の存在です。ですのでもう年ですわとは言えず、頑張りますわになってしまいました。

以上、壊滅的に文才のない者が書いた駄文でしたが、自己紹介でした。今後の抱負に関しましては、もう一つだけ。昨シーズンはシルバーコレクターでしたので、一回は優勝して院長からご褒美を頂きましょう。がんばれ 国下整形。



優勝を目指してプレーする選手たち=七尾城山野球場で



平成 29 年 12 月に閉院したやちクリニックを継承し、新たに平成 30 年 5 月に開業した山崎耳鼻咽喉科クリニック院長の山崎 芳文と申します。

私は七尾市万行町出身で、七尾高校理数科を卒業し金沢大学医学部に入学。卒後は、金沢大学医学部耳鼻咽喉科に入局し、大学院での研究や石川県や富山県の病院で働いたのち、縁あって平成 12 年 7 月にかほく市で開業しました。(経過中、平成 6 年 4 月から 2 年間恵寿総合病院に勤務し、お世話になっておりました。)

以来、約 18 年にわたりかほく市で働いていましたが、平成 29 年 12 月やちクリニックが閉院し七尾の方々がとても不便に感じているとのことで、谷内先生から継承を勧められ家族や友人等からも継承を勧められ、年齢も若くはなく迷いましたが、かほく市のクリニックを平成 30 年 3 月末に閉院し、あらためて私の地元の七尾市で 5 月 2 日に開業しました。

かほく市においては、突然、後継者もなく閉院をしましたので、大変すまなく思っております。河北郡市医師会では、当初、慣れない土地で心配しておりましたが、諸先生方から、いろいろな助言等を頂き、また地区担当理事などを任せられいろいろな事を勉強させて頂き、アットホームで、大変恵まれた環境に囲まれて、とても感謝しております。これからは、これらの経験を糧にして七尾で励んで行こうと思っております。

ところで、医師になろうと思ったきっかけは、私が、小学校 4 年生の時に母親が大病を患い、命が危ないと宣告され、金沢大学医学部附属病院に転院し加療を行い奇跡的に回復した経験があり(母は今も健在

です)、また、中学から高校生の頃に従弟が勤務医をしていたこともあり、医師になりたいと思うようになりました。

今後については、七尾市で唯一の耳鼻咽喉科のクリニックとして、七尾市医師会の諸先生方や総合病院の諸先生方と病診連携を図り、これまでの経験を活かして地域に貢献していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

趣味の自転車とマラソンについて、自転車は、学生時代に興味があり、ツーリングが可能な本格的な自転車を手に入れるも、その年の暮れに盗難にあい夢半ばで中断。平成 18 年 5 月知り合いが、北国新聞に、「仲間と自転車で、能登から大阪へ、300km 超の距離を徹夜で完走した」との記事が掲載され、昔の思いが再燃し、早速、自転車を購入と同時に自転車同好会・夢遊輪に入会。その年から、ツールド能登に、大阪へも翌年から参加。また、平成 21 年からは、グランfond八ヶ岳、グランfond富山や佐渡ロングライド等自転車イベントにも参加。早くは走れませんが、坂を上ったり、長距離を走るのは、つらいですけど、その後の達成感・爽快感や仲間との打ち上げが楽しいです!マラソンは、遅れて 10 年位前から、中学の同級生やとある飲み仲間がランニングをやっており、最初は無理だと思っておりましたが、早くは走れませんが、徐々に距離が延び、平成 25 年 3 月能登和倉万葉マラソンで初のフルマラソン完走。以後、相変わらず遅いですが、富士山マラソンや中能登トレイルランなどにも参加。足は痛くても達成感が楽しいですね!





皆様こんにちは。

平成30年4月より、七尾訪問看護ステーションで管理者をしております、桶谷綾子と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。管理職も初めてで日々皆様に助けをいただきながらなんとか無事に1年経過しました。

私は、看護師になった後大学病院で7年勤務し、次はどうしようかと何も考えずに退職しました。翌月に当時の河北郡高松町で訪問看護師を募集していると誘われて、面接を受けたのがきっかけで、平成10年より訪問看護師をしております。面接に誘ってくれた同僚の西さんとは、開所当時から一緒に仕事をしてきました。彼女はそこで管理者をしており、異動の話があった時からいろいろ大変だったと思いますが、思い切って送り出してくれて、いつも相談にのってくれる心強い存在です。

病院勤務を辞めたのは、このまま働いては、出産や子育てが大変だと思ったことが理由でした。現在は環境が整ってきていると思いますが、核家族で3交代勤務は厳しいものがありました。

訪問看護を始めてから7年は非常勤として半日程度の勤務をして、次の7年は嘱託として短時間勤務で、家庭とのバランスをとりながら働いてきました。訪問看護ステーションが始まってしばらくは、24時間対応はしていなかったのですが、時代の流れで緊急時対応も行うようになり、初めて連帯当番をするようになったのは2人目の娘がまだ1歳だったと思います。夜中に電話があり、そっと起きて訪問にかけつけ、帰宅した時には娘はテレビを見ており、そばで夫がほっとしていたことがいい思い出となっております。

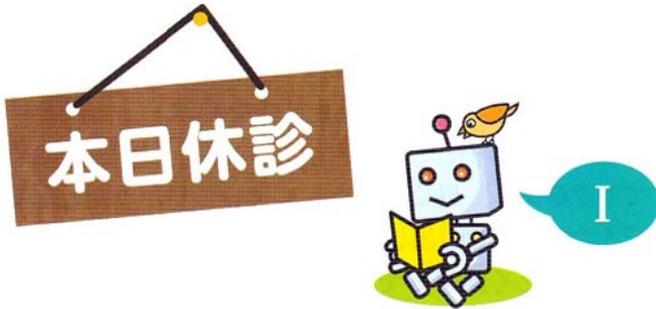
長男は今年成人式を迎えました。あまり面倒をみてあげられませんでした。中高生の頃はいつも朝遅れそうになって、学校に送らされて怒りまくってました。それでも卒業式では中高とも皆勤賞をとり、涙が出るほどうれしかったです。長女は今高校生で毎朝6時の電車で通学しているため必然的に私も起きなければならず、宝達志水町からの通勤に助かっています。長女は、4歳から町のバトントワリング教室に通い、中学生まで続けました。夜や土日に練習があり、指導して下さった先生は金沢から通われとても熱心な方でした。お蔭で全国大会にチームとして5年連続出場することができ、メンバーで世界大会に出場している選手もいましたので、保護者もお互いに仕事を持ちながら一生懸命でした。携帯を持ちながら体育館にいることも多く、緊急の連絡があると「大丈夫、(娘を) 見ているから行っておいで」と友人のママさんが送り出してくれました。これまで訪問看護を続けてこられたのは、家族や周囲の理解、協力があつたからこそと思っています。

生まれ育った七尾市ですが、道も建物も随分変わり、最初は困惑していましたが、面影はたくさん残っており、走っているだけで懐かしく癒されています。また人柄も優しいです。これまでお盆とお正月頃にやっと帰省している実家でしたが、今は毎週のように母の顔も見ることができ、七尾市に来られたことに大変感謝しております。

うちのステーションは、看護師8名、専任のケアマネージャー1名、事務員1名の10名です。24時間いつでもご連絡やご相談、訪問に対応しています。訪問に行くときは一人ですが、ステーションに戻ってから職員同士で、次はどうしたらいいかといつも話し合い、チームで関わることでよりよい看護につなげています。その方の人生の大切な時に関わらせていただいていると日々実感し、感謝しながら、人生の大学で学んでいる思いで訪問させていただいています。

今後は、地域の方々との交流も深めながら、在宅療養への認知を広げて、自宅や住み慣れた住まいで、最期まで暮らしたい気持ちをあきらめなくてもいい七尾市にしていきたいと思っています。職員一同仲良く、学びを深め、心のこもった看護を提供していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。





さはらファミリークリニック
佐原吉博

昭和50年10月に和倉温泉駅前が開業して43年、病院建物の耐震化工事が困難となり、佐原病院は平成30年3月をもって閉院しました。

そして、さはらファミリークリニックのみとなりましたので、私は時々の代診以外はフリーとなり、能登島の施設担当をしながら、半浦町の「悠々なぎさ公園」と閩町の「悠々のとじま公園」の整備に専念しています。



悠々なぎさ公園 海岸



悠々のとじま公園 入口

平成24年3月、思い立ってコマツの粟津センターで1週間泊まり込みで、重機講習会を受け、その後、自動車学校で大型特殊免許を取得しました。

のとじま悠々ホームは10mの高台に建っていますが、裏側の低地は笹竹とススキが密生した荒地となっていましたので、早速、中古ユンボを購入して、暇を見て整地を始めました。右のレバーはアームの上下とバケツの開閉、左のレバーは重機本体の回転とアームの屈伸で作業をしますが、当初は連携作業が巧いかず、苦労しましたが、次第に慣れてきて作業が順調に行くようになりました。



作業に必要な水を確保する為、業者に依頼して井戸を掘り、トイレを設置し、波打ち際の海岸にはコンクリート階段を設置しました。必要経費は寄付金で賄い、今後も続けることにしています。

通路を挟んで整地した、300坪3ヶ所、計千坪の庭園はクローバーをベースに、季節の花・菜の花とコスモス、チューリップなどの球根、さらに、500坪の斜面には芝桜を植え、平成26年6月、職員一同で「悠々なぎさ公園」の完成祝いをしました。此処は和倉温泉加賀屋の真向かいで、夏の花火は見ものです。

平成27年、地元の業者から、閩地区の1万坪の山林の赤土採取(土木工事に使う良質の赤土がとれる)依頼があり、以前から、この山林の開発を計画していましたので承りました。工事は樹木を伐採して、表層土を取り除いた後、工事用の赤土を採取しており、平成29年春、工事が終わった3千坪の丘陵地に、井戸掘り、トイレ設置した後、先ず、猪防止用に延長200mの金網を張り、その内側に蜜柑、栗など10種類50本の果樹を植えました。

12月に入り、幅10mの通路の両側に5年ものの染井吉野を20本としだれ櫻を2本、金網の外側に七尾市から無料で提供受けた小さな櫻を20本植栽しました。

植栽する穴は、赤土は堅くて手では掘れないので、私が小型ユンボで穴掘り作業を担当し、植栽しました。

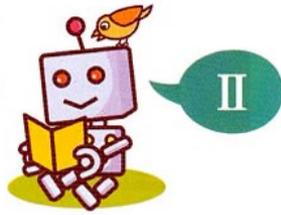
今年も、工事の終わった3千坪の丘陵地に同様の植樹をする予定です。

平成29年12月、悠々なぎさ公園の庭園が一面に猪に荒らされ、修復に苦労しました。平成30年春、此処も延長200mの金網を設置しましたので、その後、金網の外側は猪に荒らされましたが、公園内は無事で安心していています。

さて、昭和50年夏、将来、船に乗りたいとの思いから、七尾湾でモーターボートの講習を3日間受け、その後、更新研修を受けずに放置していましたので、昨年11月、免許失効講習会を受け、1級小型船舶操縦免許を貰ってきました。

そして、長年の夢を実現するため、この春、小型船舶を購入して、悠々なぎさマリーナを整備する準備を始めています。

私は今年、83才になります。猛打賞を続けるゴルフコンペも20回程あり、忙しい年になりそうです。



70歳の眩き

八野田整形外科医院
八野田実

朝起きして何の迷いもなく診療をしてきた45年間。開業して25年間、「診療を出来なくなる時は死ぬ時」と漠然と思っていた。「生涯現役」と言うほどの気負いではない。医師であることは医学部卒業者の社会への義務であり、他の選択肢など考えもしなかっただけだった。そして何よりも「ありがとう」の一言で報いられ続けてこれた。しかし、気持ちは20歳なのに、何時の間にか体力気力の衰えを感じ、母親の言っていた「シンドイ」がようやく理解できる歳になった。

そんな時、ありがたいことに長男が後を継いでくれると言う。好きなことをする自由な時間が生まれて初めて出来た。世界中旅行をしよう。絵を描こう。本を読もう。小説を書こう。そんな夢みたいな毎日が始まった。

しかし、どういう訳か周りの全員が「隠居などすれば老けるから止める」と言う。そんな馬鹿など思っていたが、今は「なるほど」と理解できる。人間は楽をすると怠け心に流され、気も心も体もなまってしまふものだ。好き放題生きるよりは、何かを成し遂げる、誰かのために役に立つ等の自己規律が有ったほうが、楽しい時間が輝く。

と言う訳で、1年に1~2回程度の長期旅行以外は、週の内2日間診療、2日間孫守、3日間が趣味という絶妙のバランスで、老けない正しい高齢者の生活スケジュールを送ろうとしている。

今、人生の秋を迎えて、空は黄色や藤色に染まり、山は雪の前に錦に彩られている。ただ食って寝るだけでは勿体無い貴重な時間だ。継続は力なりというのは、時間のある人間の言うことだ。一瞬の煌きの連続が人生だと思う。嫌な事は早く忘れ、楽しい事だ

け覚えておけば良い。一杯の美酒、思いがけない絶景、心温まる人情、爆笑のシーン、春のまどろみ等々。そんな時、煌くために最も大切なのは・・・誰と共に時を刻むか・・・だろう。夜に夢を見、朝目覚めてワクワクし、昼にときめき、良い一日だったと眠る。そんな日々を創り出し、自分自身のキャンバスにできる限り美しく艶やかで絢爛豪華な絵を描きたい。わびさび等はただの平和だ。目指すは命がけの九蓮宝燈。

趣味として、一つは七尾城落城について1年にわたり調べている。解っている事実はあまりに少なく、説は様々で、行間を埋めるためにはできる限り合理的と思えるストーリーを想像するしかない。能登における公領(護衛領)、荘園から戦国期の守護、地頭の領国支配への経緯がよく分からない。知る限りでは、加能史料鎌倉I「能登国四郡公田田数目録案」(能登国大田文)と羽咋市史に能登国の荘園公領分布図(中世前期)がある。また、半島国の中世史(東四柳史明著)に詳細にまとめられている。しかし、1566年(永禄9年)畠山義綱追放または出奔当時の領国の実効支配の状況がよく分からない。どなたか良い資料をご存知の方がおられましたら、何卒お教え下さい。

もう一つは、子供のころから絵を画きたかったので、自分のためだけに画きたいと思ったものだけを画いている。絵は写真ではなく、頭のイメージの色。形を自由に表現するので、自分にとっては最も気楽な趣味になる。しかし、10年かけても自信が出来るかどうか。画くたびに後からなおしたくなる。家族は早く油絵で画けというがまだ画けない。

残せる小説や絵が出来れば上等。



これだけは言わせて！ — ⑨

七尾市医師会副会長 佐原博之

パトリアの終焉に思うこと —「かかりつけ医」を中心とした「まちづくり」—



JR七尾駅前のパトリアの管理団体が破産申請をしたことは、連日地元の新聞を賑わし、全国ニュースでも取り上げられました。あの場所には遥か昔、小丸山小学校の御祓教場があり、私も小学校2年生まで通っていました。昭和46年に小丸山小学校の新校舎が落成して、その跡地にユニーが出来ました。高校時代にはユニーのゲームセンターやミスターーナツにもよく行ったものです。私は高校卒業後、20年間七尾から離れていましたが、その間にユニーに代わってパトリアができました。七尾駅前の象徴としてさらにグレードアップしたなと思っていましたので、本当に残念です。

日本医師会の横倉義武会長は、『「かかりつけ医」を中心とした「まちづくり」』を基本方針の一つとして挙げています。過疎化が進む中でも、国民が安心して生活ができるためには地域医療が不可欠であり、地域包括ケアシステムを進めていく中で「かかりつけ医」には積極的に関わっていただきたいということです。もちろん医師だけでは地域包括ケアシステムの構築や「まちづくり」はできませんが、医師がいないところでは地域医療の話を進めることは出来ません。

地域包括ケアシステムは、地域で様々な職種の方々連携して高齢の方の生活を支えていくという概念です。地域包括ケアシステムの概念をイメージした植木鉢図では、「医療・看護」、「介護・リハビリテーション」、「保健・福祉」という3つのプロフェッショナルワークを3つの葉で表現し、その3要素は決してバラバラなものではなく、同じ茎から出て根っ子は共通していることを示しています。土の部分の「介護予防・生活支援」は本人が責任を持つ

生活を示しており、それが崩れないように「すまいとすまい方」という植木鉢が支えています。そして、そのベースとなっているのが皿の部分の「本人の選択と本人・家族の心構え」となっています。以前のバージョンの植木鉢図では皿の部分は「本人・家族の選択と心構え」と書かれていました。変更の意図は、選択をするのは家族ではなく、あくまで本人であるということを強調したかったようです。

昨年3月に出された「人生の最終段階の医療における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」でも、「本人の意思」が確認できる場合と、確認できない場合に分けて論じられています。本人の意思を確認できない場合は、家族等(親しい友人なども含む)の本人の意思を推定できるものが、その推定意思を尊重して本人にとっての最善の方針を取ることを基本とされています。あくまで「本人の意思」が尊重され、家族の都合で決めるものではないということです。

私たちがこの地域に住んでいるのは、各種の事情があるにせよ最終的には「自分の意思」によって選択した結果です。確かにこの地域より交通の便が良く、いろいろなお店や施設等がたくさんあるところもありますが、豊かな自然に恵まれ、食べるものがおいしく、歴史と伝統と文化を持つこの地域に誇りを持っている方も多いかと思います。しかし、近隣で買い物ができるところがなくなってしまうということは、「すまいとすまい方」にも大きな影響を及ぼすことになるでしょう。そういった意味でもパトリアの終焉というのは非常に残念な話でした。

平成が終わり、令和の時代となってもこの地域の地域医療が持続可能となるために、私たち「かかりつけ医」は自院での医師としての仕事に真摯に打ち込みつつ、さらに様々な職種の方々と連携して「まちづくり」に関わることが求められているように思います。その窓口となるのも七尾市医師会の使命だろうと考えながら、パトリアの行く末を見守る今日この頃です。

＜進化する地域包括ケアシステムの「植木鉢」＞



七尾看護専門学校から

七 **看** **だ** **よ** **り**

平成31年度入学式

平成から令和へ 新入生 42 名が第一歩

4月4日 入学式が行われ希望に胸を膨らませた新入生 42 名が看護学生としての第一歩を踏み出しました。



学校長式辞



学校長式辞

目標を忘れず見逃さず迷わずまっすぐ歩んでください。



入学生代表宣誓

勉学に励み、自分の行動や役割に責任を持ち、看護学生として精進します。



歓迎の挨拶

皆様の入学を在校生一同心から歓迎します。



職員紹介

平成30年度行事



3月8日

◇卒業証書授与式

平成最後の卒業式です。卒業生 40 名。



学校卒業式



11月22日

◇戴帽式

2年生 35 名が病院実習を前に決意を新たにしました。



令和2年度
学生募集

学校見学会



高校1・2・3年生 社会人の方

7/27(土) 28(日)



☆校内見学・個別相談

☆看護技術体験

☆在校生との座談会

お問合せ先

七尾看護専門学校

TEL : 0767-52-9988

FAX : 0767-53-6548

<http://www.nanaokango.jp/>

紫蘭の会活動報告



ななお紫蘭の会会長
円山病院院長 円山寛人



「ななお紫蘭の会」の生い立ち

平成21年9月24日、認知症の対応困難症例には一施設での対応は困難であり、多施設・多職種協働が必要とのことで、当時、七尾市福祉施設協議会会長であった佐原吉博先生が中心となり、「七尾市認知症対策プロジェクト委員会」が創設された。

主たる活動は 多職種連携による ①認知症対策のために、行政・医療・福祉・民間団体のお互いの理解を深め、連携・協働を推進する ②行政に対して必要な施策の提言、七尾市における認知症の実態調査、認知症相談窓口の設置 ③一般市民に向けた認知症の啓蒙活動、医療・介護スタッフを対象に認知症の勉強会を企画 等であった。そして、活動を通じて顔の見える関係づくりに努めた。

そんななかで、認知症のみならず在宅医療介護における様々な問題への対応が求められるようになった。

そこで平成23年3月、同委員会を発展的に解消し、在宅全般に対応する「ななお紫蘭の会」の創設となった。この時活動強化のため、新規参入メンバーとして歯科医師会、薬剤師会そして管理栄養士会より委員参加の協力を頂いた。

くしくも平成23年度に、いわゆる2025年・2040年問題の対策として、国の在宅医療介護連携推進事業（地域包括ケアシステムの構築）が始動していた（最終的には平成30年度より各市町の責任で実施する運びとなる国策）。そこで、「ななお紫蘭の会」では七尾市の委託を受け、2014年（平成26年）から、年5～6回開催している役員会のうち3回分を市の連携推進協議会と合同開催する事にした。



現在のななお紫蘭の会の役員構成 (22名)

医師 (6)、精神科医 (1)、歯科医師 (1) 薬剤師 (1)、看護師 (1)、栄養士 (1) 作業療法士 (1)、理学療養士 (1)、医療ソーシャルワーカー (1) 介護支援専門員 (1)
以上の15名が七尾市在宅医療介護連携推進協議会の委員を兼ねる (七尾市長の委嘱)
精神科医 (1)、歯科医師 (1)、言語聴覚士 (1)、医療ソーシャルワーカー (1) 福祉施設長 (1)、栄養士 (1)、地域包括支援センター・社協 (1) 以上22名。
他に、街づくりセンターのマネージャー (1)、オブザーバーとして高齢者支援課 (1)、保健所 (1) が参加。

現在の活動は七尾市との協働で次の(ア)～(ク)を行っている。

- (ア) 地域の医療・介護サービス資源の把握
在宅医療を行う医療・歯科・薬局施設の情報、高齢者を支援する施設等の一覧資料の配布
- (イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応の検討
在宅医療・介護連携推進協議会の開催
石川県在宅医療・介護連携担当者研修会への参加
- (ウ) 切れ目のない在宅医療と介護サービスの提供体制の構築推進
ななか在宅Dr.ネットの創設 (七尾市医師会方式)
これは七尾訪問看護ステーションとの連携による在宅看取り時の輪番制代診医制度 (週末・祝日のみ)。これにより在宅における24時間365日の看取りを可能にした
- (エ) 在宅医療・介護サービスの情報共有支援
在宅医療の勉強会と多職種連携シートの作成
- (オ) 在宅医療・介護サービスに関する相談支援
①在宅医療・介護支援センターの設置 (七尾市社会福祉協議会)
②コーディネーターの設置 (七尾市地域包括支援センター長)

■「認知症ほっとけんステーション事業」(小松市のスタイル)の導入。

七尾市における「認知症ほっとけんステーション」の設置と七尾市独自のキャラクターの募集・作成



なな

- (カ) 在宅医療・介護関係者の研修
高齢者の特性や終末期における在宅での対応について、座学・グループワーク・講演会などを開催



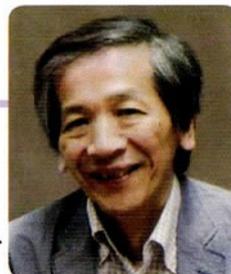
- (キ) 地域住民への普及啓発
パンフレットの配布や県民公開講座などの開催。
- (ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携
石川県内にある在宅医療介護連携推進グループ (17グループ) における活動報告会と研修

これらの活動を通して、認知症になっても住みやすいところであるように、また終末期にも安心して在宅で最期を迎えられる、そんな地域作りのお手伝いをしたいと思って活動しています。

「あじさい会物語」



あじさい会代表
中能登町安田医院 安田紀久雄



むかしむかし、ある田舎町におじさんとおばさんがおりました。おじさんは山へ下刈りに・・・いかないで、毎日お年寄りのところへ往診にっていました。おばさんは川へ洗濯に・・・いかないで、やはりお年寄りのところへ行って、お体を拭いたり、処置したり、お話を聞いたりしていました。あるとき、おばさんが言いました。「おじさんや、たまにはうまいもの一緒に腹いっぱい食いたいなも」。おじさんはいいました。「おお、そうだの、うまいもの食いながらおめえの愚痴でも聞くべや」。

というわけで、2000年ころに、訪問診療していたおじさんこと安田医師と、訪問看護していたおばさんこと松栄看護師は、同じく在宅に関わっていた数名とおいしいものを食べ、飲みながらお互いの愚痴を言い合ったのでした。

このとき、中能登町はまだ合併前（合併は2013年）で、鹿西町の時代でした。鹿西町はころ柿の産地でもあり、「ころ柿の会」と名づけたのでした。

その後、参加者は徐々に増え、在宅に関わる誰もが参加して勉強する多職種の会へと発展してゆきました。

平成の大合併で町は中能登町となり、懇親会を開いた時期に鮮やかな色で咲き誇っていたあじさいに名を借りて「あじさい会」としたのでした。

でも、あじさいは色を変える「移り気な」花でした。さすがに困ったのですが、よくよく調べるとその花言葉には「ひたむきな愛情」「元気な女性」など素敵な意味もあり、ほっとしたのでした。

あじさい会には、医師や訪問看護師、薬剤師、ヘルパー、ケアマネジャー、施設の職員、役場の職員、連携する病院のスタッフなどなど、在宅に関わっているものならば誰でも参加して、自由に発言したり、学ぶことができる会です。在宅で生じた疑問や興味ある問題をテーマに勉強会を開いたり、七尾の「ななお紫蘭の会」との合同での勉強会に参加したりします。2、3年前には在宅看取りをテーマにした寸劇を町の福祉の会で演じて好評を得ました。また、最近では、県内にある在宅連携の会がそれぞれの活動について、年

に1回発表して、お互い切磋琢磨しています。

また、あじさい会の特徴として、年に2回、懇親会をおこなっています。飲んで食べて、歌って踊って、さらに豪華景品つきのクイズ大会など楽しい趣向が満載です。懇親会があることでお互いの顔の見える関係作りや、職種間での垣根のない意見交換ができており、懇親会はあじさい会のなかで重要な存在になっています。

最近では「認知症」と「在宅看取り」を主なテーマに勉強会を開いています。ただ、結構な歴史を持ったあじさい会ではありますが、課題も多々あります。



地域住民との交流ももっと必要と思われますし、認知症にしても看取りにしてもまだまだあじさい会の活動が認知されているとはいいい難く、今後の広報活動が重要です。また、看取りには医師や訪問看護師の手厚いケアとともに、ご本人、ご家族の意識の醸成なども重要です。最近言われているアドバンス・ケア・プランニング（最近「人生会議」といいます）もまだ緒についたばかりです。そして、住民の高齢化とともに、在宅に関わっているスタッフの高齢化という問題もあります。

でも、多くの課題を抱えながらも、日々、**あ**すにむかって、**じ**みちな努力を積み重ね、**さ**わやかな笑顔で、**い**きいきと生きてゆく、そんな会であり続けたいと思っています。

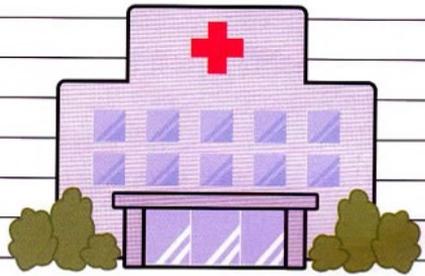
(□を続けて読んでみてください)



医師会の窓

[行事]	平成30年4月～平成31年4月
MSN合唱練習	平成30年4月10日・24日、5月8日・22日、6月12日・26日、7月10日・24日、8月28日、9月11日・25日、10月9日・23日、11月18日・27日、12月11日・25日、平成31年1月8日・22日、2月12日、3月26日、4月9日・23日
総務会	平成30年4月9日、5月7日、6月1日、7月9日、9月3日、10月9日、11月12日、12月3日、平成31年1月15日、2月12日、3月11日、4月8日
役員会	平成30年4月16日、5月14日・28日、6月18日、7月23日、9月10日、10月15日、11月19日、12月17日、平成31年1月21日、2月18日、3月18日・25日、4月15日

平成30年	
4月5日	七尾看護専門学校入学式
5月21日	社内監査
27日	三師会ゴルフコンペ (優勝: 荒井正栄/荒井皮ふ科クリニック)
28日	第6回定時総会
7月2日	平成30年度第1回能登中部小児休日診療協議会
8月8日	平成30年度第1回MSN編集会議
9月14日	救急医療講習会
16日	第2回ローカル路線夏の旅
30日	MSNゴルフコンペ (優勝: 松島昭廣/国立病院機構七尾病院)
10月2日	石川県医師会との懇談会
12日	第8回JOY会
11月15日	中能登地域産業保健センター運営協議会
22日	七尾看護専門学校戴帽式
29日	MSN忘年会 (MSN合唱団演奏)
12月13日	平成30年度第2回能登中部小児休日診療協議会
平成31年	
1月9日	緊急時医療研修会
15日	平成30年度第2回MSN編集会議
2月17日	三師会麻雀大会 (優勝: 甲春夫/かぶと歯科医院)
3月8日	七尾看護専門学校卒業式
25日	3月臨時役員会・平成30年度臨時総会
4月4日	七尾看護専門学校入学式



[医師の異動] 平成30年4月～平成31年3月 (順不同、敬称略)

入会:	山崎芳文 (山崎耳鼻咽喉科クリニック)、廣正修一 (田鶴浜診療所)、安井正英 (国立病院機構七尾病院)、加賀谷侑・谷村航太・西谷雅樹・河野達彦・引地俊文・山本大樹・上野恭一・東恭子・山崎恵大・林憲史・吉田晶代・高嶋勇志・前田貴智・中島啓貴・安本真衣・高橋健・安田康平・江村純正・豊岡達志・宮田康一・赤崎恭太 (以上、恵寿総合病院)、北川浩太・海老沢武志・竹内良太郎・北村浩司 (以上、公立能登総合病院)
退会:	刀禰恒夫 (ご逝去)、益野外志雄 (ご逝去)、北村豊三郎 (ご逝去)、和田汪 (田鶴浜診療所)、村宏樹・東恭子・酒井珠美・松田昌悟・東雅也・南部昌之・小西正剛・尾山量子・加賀谷侑・谷村航太・引地俊文・林憲史・吉田晶代・高嶋勇志・田中和・前田貴智 (以上、恵寿総合病院)、宮崎青爾 (老人保健施設和光苑)、朴在鎬・茶谷圭祐・田中弘之・若松真行・北川浩太・海老沢武志 (以上、公立能登総合病院)
異動:	横山文男 (横山皮膚科医院→自宅)

働き方改革と産業保健

七尾市医師会副会長 北村 勝



昨年、働き方改革に関する法律案が可決しました。改正事項や企業規模によって異なりますが、労作時間制度や健康管理に関する事項は本年の4月1日に施行されました。また、労働者健康管理については、労働安全衛生法の一部改正によって産業医・産業保健機能の強化が進められます。労働者の健康管理(メンタルヘルスを含む)に係る相談、健康診断の結果についての専門医の意見聴取、長時間労働者に対する面

接指導、高ストレス者に対する面接指導等が必要になってきています。なかでも、面接指導を実施する医師は、産業医や産業医の要件を備えた医師が望まれています。その中で中能登地域産業保健センターでは、産業医選任義務のない従業員50名未満の小規模事業所を対象に産業保健サービスを無料で提供しています。ご協力の相談医療機関は多数に上っており、事業所の信頼を得ています。医師会皆さまにおかれましては、これからも中能登地域保健センターの運営にご協力の程どうかよろしくお願い申し上げます。また、医師の労働時間の短縮策についても数年後には、具体的になると思われまます。会員の皆様には、是非とも、ご自身のお体を大事にしてください。

短 信

◆平成30年度石川県医師会医療功労者表彰

森 善裕 (森クリニック)
谷内信幸 (自宅)
北村 勝 (北村病院)
佐原博之 (さはらファミリークリニック)

◆平成30年度石川県知事表彰 (母子保健事業)

中谷茂和 (恵寿総合病院)

◆平成30年度石川県知事表彰 (健康増進事業)

田中文夫 (田中内科クリニック)
真智俊彦 (公立能登総合病院)

◆七尾拘置所嘱託医の功績による感謝状贈呈

北村 勝 (北村病院)

◆平成29年度七尾市・中能登町在宅当番医制事業報告

○休日当番医実施日数：72日
○来院患者数
七尾市・中能登町 (一般)：975人
七尾市・中能登町 (広域小児)：1,277人

◆平成30年度七尾市・中能登町在宅当番医制事業報告

○休日当番医実施日数：73日
○来院患者数
七尾市・中能登町 (一般)：792人
七尾市・中能登町 (広域小児)：1,687人

(発行責任者) 奥村義治

メディカルサロンななお編集部

(編集委員) 五十音順

上木 修・円山 寛人・鍛冶 武和・北村 勝
木元 一仁・佐原 博之・高澤 雅至・田中 文夫
中尾 義広・中村耕一郎・藤田 晋宏・安田紀久雄
山本ひろみ・神前昭太郎

編集後記

令和元年7月7日に第77号の「メディカルサロンななお」を発刊致しました。

機関紙「メディカルサロンななお」は、七尾市医師会が発信する医療と地域の連携を目的としたコミュニケーション活動の一環として、平成2年7月31日に創刊されました。以来、平成の歩みと共に様々な情報を会員のみならず関係機関や一般市民に伝えてきました。

しかし、医薬行政の変化により協賛企業からの賛助も十分に得られなくなる等の諸事情も相まって、当「メディカルサロンななお」は内容を一部リニューアルし、発刊も年1回とすることとなりました。

折しも、時代は新たに“令和”となり、奥村会長の寄稿にもある「住みやすい街を目指して」、先ずは医師会内の情報共有の強化のために会員向けの内容を充実させました。

是非、会員の皆様には当誌を熟読いただき、今後も医師会活動にご協力下さいますようお願い申し上げます。

(鍛冶)

【会員訃報】

元 とね内科医院/刀禰恒夫先生 (七尾市山王町) が平成30年8月11日にご逝去されました。

元 益野医院/益野外志雄先生 (鹿島郡中能登町) が平成30年10月12日にご逝去されました。

北村病院/北村豊三郎先生 (七尾市御祓町) が平成31年3月5日にご逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。